

2024年1月7日

「主の僕として」

イザヤ書 42:1-9

竹島 敏牧師

2024年の最初の主日礼拝に私たちに与えられたみ言葉は、主なる神の力強い呼びかけで始まっています。見よ、と神は呼びかけています。「わたしの僕、わたしが支える者」、つまり神が支えておられるこの僕を見よ、と言われていています。神のみ心を受けて忠実にその使命を果たそうとしているこの僕の姿を見よ、そしてその姿に倣って歩め、ということです。この神の僕とは言うまでもなくイエス・キリストのことです。ここで聖書は現代を生きる私たちに、神の御子イエスに倣って神の僕としての使命を果たせと言っています。私たちもイエスキリストの僕としてイエスに倣うように「主である神」から召されている者たちです。イエスに倣ってこの自分にもできることを見出し、そこに新たな希望が芽生えるのです。何の功なき私たちが神は恵みによって呼び、手を取って召し出してくださっています。

天地万物の創造主である神の限りない慈しみと励ましには、生き続けてゆくことへの困難さをどうすることもできなくなっている人たちの命をじんわりとあたため、ゆっくりと立ち上がってみようとする勇気が与えられる、そのような力があります。傷ついた葦が折られてしまったかのように、暗くなっていく灯心がついには消え去ってしまったかのように見えても、なおも神の僕である主イエスの教えを思い起したいものです。そして、見よ、と言われた方の言いつけに従ってゆけば希望が見えてくることに望みをおいて、一緒に心を寄せて私たちの歩みが導かれ召し出されてゆきますように。